



森ボラ 通信

第103号 2010年12月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会
URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>
札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F
Tel (fax.): (011)816 - 7010
E-mail: hshinrin2002@nifty.com

■ トピックス

◆ 12月セミナー 「風倒跡地の植生回復 3年間のモニタリング結果」

北海道大学院講師 (農学研究院森林管理保全学分野森林生態系管理学研究室) 森本淳子博士

(12月10日参加者21名)

冬季最初のセミナーは、4月に移転した事務所(3階)の披露を兼ねてラルズビルの4階会議室で開催された。

森本先生にはCGCの森で植生遷移や食害・鹿柵などをご指導頂いており、今回、支笏湖畔の風倒跡地で試験調査されている施業方法と植生回復の違いについてお話頂いた。

森本先生がこの研究調査に取り組んでいる背景には 従来、森林の風倒後の施業(森林の育成・管理)は、まず最初に予定していた収穫が得られなかった森林から少しでも経済的収益を得ること、新たな森林火災原因の除去、昆虫類の大発生防止、森林の早期回復などを目的とした風倒木の収穫・除去が行われ、次いで重機導入による地拵え、更には造林木(一般的に針葉樹)の植栽へと続くプロセスが一般的であった。だが最近、風倒などの自然撓乱は生態系の構造や機能を決める重要なプロセスの一つであり、風倒した木や残存木・生物が撓乱後の生物多様性には重要で、回復速度や方向に影響すると云われ始めた。また、森林に対する期待は単なる木材生産から木材生産・生物多様性の保全・レクリエーション利用などへと多様化し、それにあう新たな施業方法が求められるようになってきた。

これらのことを背景に、森本先生は風倒跡地を風に強い針広混交林へと誘導する適切な施業方法を明らかにするため、2008年に台風18号(2004年)による支笏湖畔の大規模風倒地(千歳国有林5305林班)に、A区(自然放置、風倒木残置)、B区(従来施業、風倒木除去+地拵え+ミズナラ植栽)、C区(従来施業、風倒木除去+地拵え+ミズナラ植栽+夏季除草)、D区(我々がボサ区と称する利用可能な木の搬出+残渣積上げ)を設け、さまざまな環境条件下(土壌水分・硬度、全光日射、光量、地表被覆物の被度、CWD高度など)での植生を調査し、目標とするミズナラ・エゾマツ・トドマツの針広混交自然林の植生(目標区)への遷移を序列化した。3年間の短い期間の結果であるが、自然に放置したA区(風倒木残置)が最も目標区の植生に近く、従来施業のB区、C区は草本・カンバ、ヤナギなどのパイオニアプランツ・アワダチ草などの外来種が侵入し最も目標に遠かった。途中、2009年には鹿の食害対策として防鹿柵を設けるなどCGCの森の鹿対策試験の発端になった取り組みもしている。

参加者は、CGCの森の人力による地拵え区(3区、4区)、野幌原始林、西野、有明などで極力人手を加えない方が森林の回復は早いと実感しており、今回の数多くの要因と結果をCCA(正準対応分析)という序列化手法を用いた結論(自然放置が最も目標の植生に近づく)にはおおいに納得し自信にもなったが、一方では我々年配者は新しいCCAという分析手法にはついて行けず時代の遅れに一抹の寂しさを感じた次第である。

実際には、撓乱地の広さ、森林の構成、その森林をどのような方向に持っていくのか、ササが生えているのか無いのかなどで自然放置の方がよいのかどうか施業の仕方が異なってくると思われる。

木材生産を目的とした一斉人工林などでは管理が行き届かず放置されたことにより荒廃しているところが多い。当協会も攪乱地には人手を掛けるのを最小限にし、極力自然の治癒力を引出す施業を実施し、余力をもって荒廃した人工林に対応したいものである。

後日、森本先生より質問についてのフォローが来ましたので追記します。

・Q：B区、C区に外来種とは

A：オオアワダチソウ、コヌカグサ、ヒメスイバ、ヒメジョオン、マツヨイグサ、ニコゲヌカキビ、シロツメクサ、エゾヌカボ、材ナダトギリ、ヒムカシヨモギ、タンポポ、アシボソ、エゾギシギシ、ハイミチヤナギ、本来の外来種はハイミチヤナギだけです。

・Q：バッタの死骸は

A：猛暑の所為でなく「昆虫病原性糸状菌」の寄生によるものと思われます。

(記 和田)

ここに挙げられた外来植物はあまり馴染みがない種類が多いので、名前と顔(姿)が一致しません。ポピュラーなヒメジョオン、シロツメクサ(クローバー)、タンポポ(セイヨウタンポポ)、エゾノギシギシを除いて画像で姿を覚えてください(記 高野)



オオアワダチソウ



コヌカグサ



ヒメスイバ



マツヨイグサ



ニコゲヌカキビ



エゾヌカボ



オオカナダオトギリ



ヒムカシヨモギ



アシボソ



ハイミチヤナギ

◆ 9回目の忘年会

協会の発足した年から忘年会は続けられており、9回目となります。12月14日 小樽朝里川温泉 マリンホテル小樽で17名参加となりました。ほんとは18名だったものが当局のボケによりKさんには大変失礼しました。さて空中風呂もそこに恒例の安着祝いがはじまり、飲み放題の宴会のあともまた二次会と耐久レースは夜半まで続きました。15日は南樽市場に立ち寄り、湯沢さんのタケノコ、キノコの壇詰め抽選に漏れた人はそれぞれお土産をゲットしました。

皆さんからのたくさんの寄贈ありがとうございました。斉藤リンゴ園さんには多大な祝儀に対しささやかですがお礼を届けました。残金¥11,168は正月の掘っ立て小屋落成会に使うこととなりました。進行係小野寺さん会計木戸さんご苦労様でした。これで来年の忘年会幹事釣井さんに引き継ぎます。(記 酒井)

当日の話題に過去の忘年会の回数と場所を確認することになりました。2002年発足以来欠かしたことがありませんので、回数は数え間違いはしませんが、場所となると他の行事等と記憶が重なったりしてあいまいになっています。途中入会の会員に対して、今後の幹事役の場所選びにも参考にさせていただきたくここで整理を試してみました。(記 高野)

これまでの忘年会

西暦	開催日	場 所	参加人数
2002	12/11, 12	定山溪「鹿の湯 もみじ館」	17人
2003	12/25, 26	定山溪「ホテルミリオオーネ」	24人
2004	12/21, 22	洞爺湖「パークホテル天翔」	22人
2005	12/9, 10	積丹町余別「シーサイド余別」	30人
2006	12/5, 6	登別温泉「ホテル石亭」	33人
2007	12/6, 7	南幌温泉	19人
2008	12/11, 12	カルルス温泉「ホテル岩井」	20人
2009	12/9, 10	小金湯温泉	26人
2010	12/14, 15	小樽「マリンヒルホテル小樽」	17人



二次会



朝飯



バスの中

■ 現場より

◆ リュバン・ドヌールのさくら

今年の夏に植えたリュバン・ドヌールの桜は根巻きのH3m苗で活着が大変心配されましたので、灌水当番を決めるなど手厚い管理をしてきました。お蔭で一本も枯らすことなく葉も落として冬の姿になりました。冬のエゾシカによる食害対策として高さ1.8mほどまでプロテクターを巻きシュロ縄でしばりました。この台地はエゾヤチネズミ エゾノウサギに時々エゾシカもやってきて植栽木エゾヤマザクラの皮を時には全周かじり枯死させます。何故植栽木だけが狙われるのかとゆう議論もありますがここでは近くの自生のヤナギなどもかじられています。(記 酒井)

■ 今月の幹事会

出席者：荻田、酒井、高野、津金、釣井、西野(悌)、和田

審議および決議事項

- 1 1月スケジュール 微調整⇒確認
- 2 澄川冬期作業計画⇒保全区、エゾヤマザクラ育成区、植樹区等確定(酒井、和田)
- 3 物置完成祝賀会⇒1月14日実施、水ギョーザ鍋、アルコールなし
- 4 アンケートの件⇒1月例会(1/13 リンケージ)で発表、討議する。
- 5 冬季学習会⇒1月13日、リンケージプラザ第三会議室。講師は村上孝三さん(ギョウジャニンニクの話)。2月東京農大 小林万里先生(北方四島の生物達) 3月エゾシカの話

■ お知らせ

◆ 1月セミナー & 安全作業講習と会員例会および新年会

1月13日 13時30分からリンケージプラザ2階3号室

- ① 講師 村上孝三氏 「山菜の王者、行者ニンニクの話(人工栽培の技術)」
- ② 講師 酒井和彦 「森林作業の安全確保」
- ③ 会員例会(アンケート結果から)
- ④ 新年会⇒場所を変えて(会場未確定)

◆物置落成祝い

1月15日 仕事始め、昼食は湯澤さんが腕に撚りかけた「水餃子鍋」を作ります。ノンアルコールです。

■ 活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活動内容
12月14,15日(火,水)	忘年会	17名	マリンヒルホテル小樽
12月13日(月)	ラルズビル	7名	12月幹事会
12月10日(金)	ラルズビル会議室	21名	セミナー
12月9日(木)	澄川	11名	片付け、冬支度
12月2日(木)	澄川	13名	落枝整理、物置、冬支度
11月25日(木)	澄川	13名	落枝整理、木道、物置

■ ひとこま

◆ 杉本氏の受賞祝賀会

11月24日(日)杉本氏の瑞宝単光章受賞の有志主催による祝賀会がJR タワー36階の広間で行われました。杉本夫妻を含めて出席23名。いつも森で顔を合わせている時の作業服とは違い、ぱりっとしたスーツや女性はドレッシーな装いで見違える姿でした。一旦宴たけなわとなるやホテル側が驚くアルコール消費量だったようです。窓からの素晴らしい景観も堪能しました。(記 高野)

